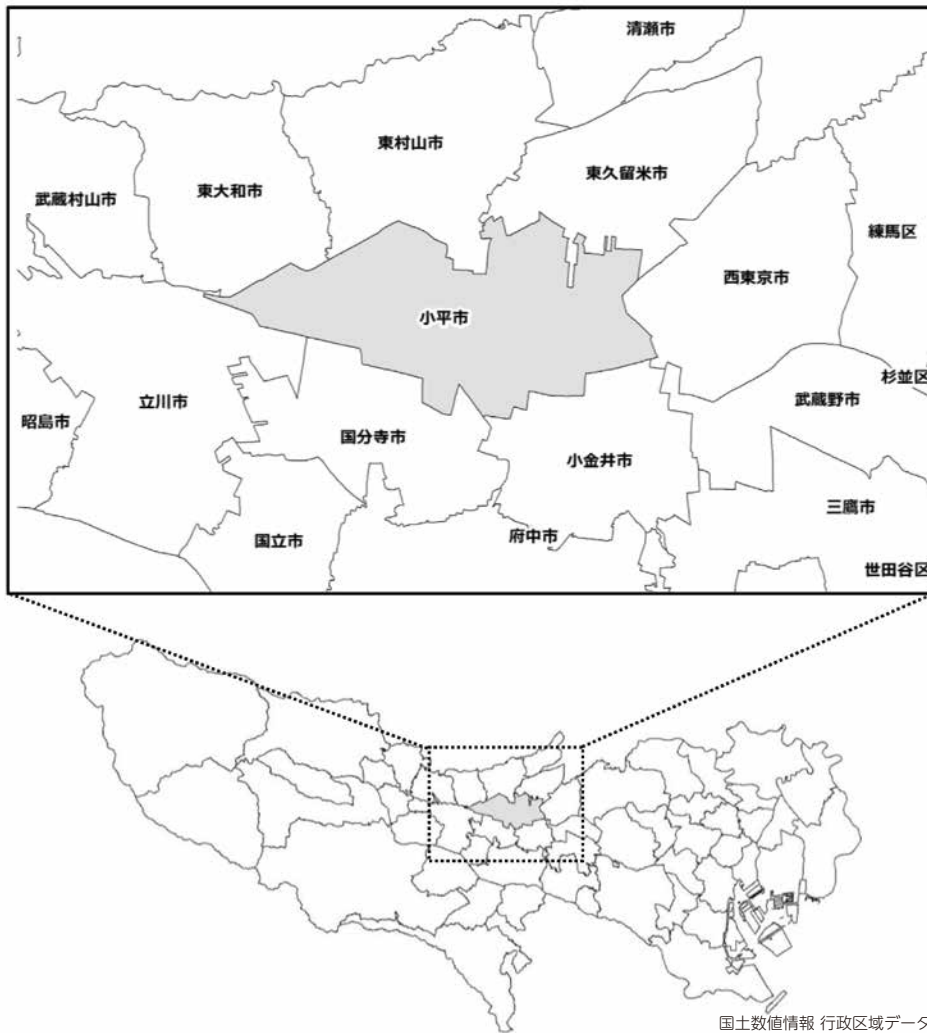


2 小平市の特性

地勢

小平市は、都心からは26kmのところの位置し、面積は20.51km²です。市域全体が武蔵野台地にあり、高低差の少ない平坦な地形をなしています。東は西東京市に、西は東大和市・立川市に、南は小金井市・国分寺市に、北は東久留米市・東村山市に接しています。

東京都における小平市の位置



国土数値情報 行政区域データ(国土交通省)をもとに作成

市民の声

- ・自然災害が少ない
- ・坂が少なく、買い物に行くにも便利



どのようにいかせるか

- ・武蔵野台地のほぼ中央に位置しているということも強みとし、防災減災に関して強化していく
- ・歩きやすいまち健康維持にもつながる



自然環境

小平市の自然を代表する小平グリーンロードは、「狭山・境緑道」、「玉川上水」、「野火止用水」、「都立小金井公園」を結び、小平市を一周する約21kmの起伏の少ない水と緑の散歩道です。平成16(2004)年には「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に認証され、また、平成27(2015)年には「新日本歩く道紀行100選『水辺の道』」に認定されました。小平グリーンロード沿いには駅が点在し、駅からそのまま緑豊かな快適空間につながります。市の周りをぐるりと取り囲んでいるこのグリーンロードは、場所や季節によって様々な姿を見せてくれます。

また、市内の農地は貴重な緑の空間でもあり、ゆとりある小平らしい景観をつくりだしています。



玉川上水



農地

市民の声

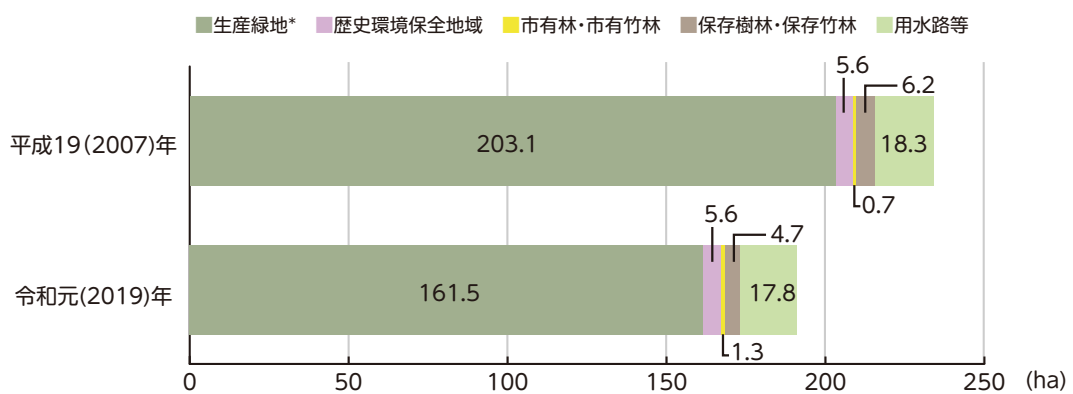
- ・小平市に住み続けたい理由
第1位「自然環境がよい」 59.6%
- ・小平市に愛着を感じる理由
第1位「緑や自然環境」 61.3%
(小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査(平成30年))
- ・緑が多く空気がよい
- ・緑豊かで文化的なまち



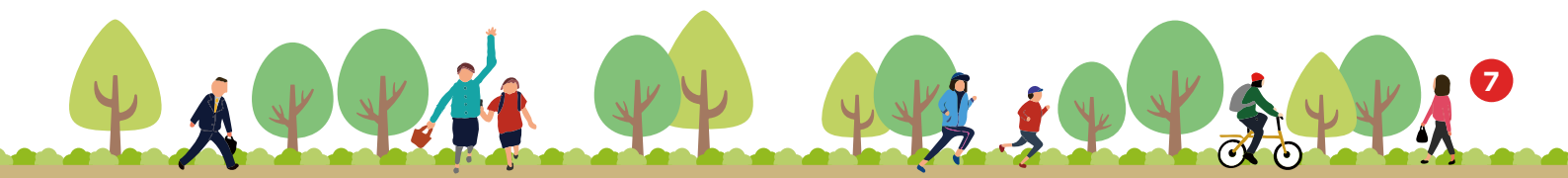
どのようにいかせるか

- ・グリーンロードなど、多くの人が往来する場所で交流を生み出す
- ・自然を残し、良質な子育て環境をつくる
- ・緑や自然を活用し、気軽に観光できるまち

地域制緑地面積の推移



資料:水と緑と公園課・都市計画課



鉄道駅

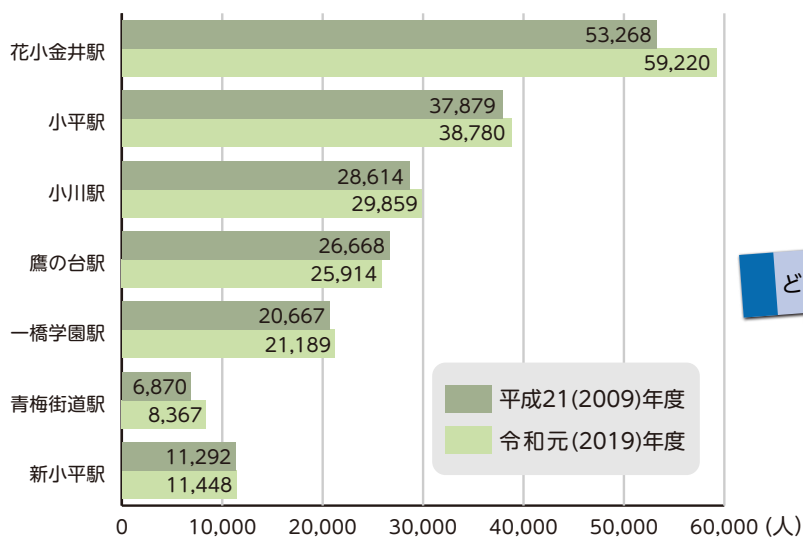
市内に7つ、さらには市境や周辺にも利用可能な複数の鉄道駅があり、都心へのアクセス性に優れています。例えば花小金井駅や小平駅から西武新宿駅までの所要時間は急行で25分から30分程度、小川駅・鷹の台駅・一橋学園駅・青梅街道駅は、国分寺駅からJR中央線に乗り継ぐことができます。また、西武線とJR中央線を結ぶバス路線も充実しています。埼玉県や千葉県的主要都市を結ぶJR武蔵野線の新小平駅もあります。

こうした鉄道駅周辺では一定の機能が備わっていることから、基本的な生活環境が整っているとともに、各地域の特性をいかした拠点としての役割を担っています。

■ 鉄道駅



■ 市内各駅における1日平均乗降者人員



市民の声

- ・都心に出やすく、過ごしやすい
- ・交通の便がいい

どのようにいさせるか

- ・駅を中心とした利便性の向上
- ・分散をいかし、各駅を中心とした特色のある地域づくり

注：西武鉄道の各駅は乗降者人員、新小平駅は乗車人員のみ 資料：西武鉄道株式会社・東日本旅客鉄道株式会社



学園都市

大正末期、小平に学園都市を造ろうという構想が持ち上がり、昭和の初めには現在の津田塾大学、一橋大学小平国際キャンパスが移転してきました。

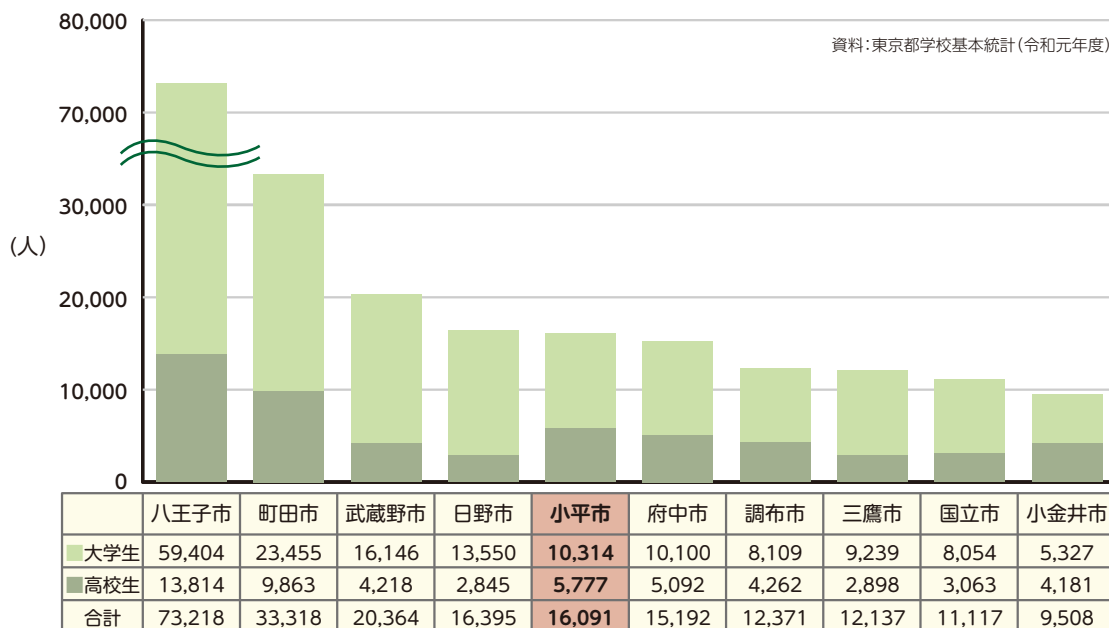
戦後も、白梅学園短期大学(現・白梅学園大学、白梅学園短期大学)、武蔵野美術大学、嘉悦女子短期大学(現・嘉悦大学)、文化女子大学(現・文化学園大学)と大学の進出が相次ぎました。6つの高校も合わせて、1万6千人を超える学生が小平の地で学んでいます。そのほか、都立小平特別支援学校、複数の大学校なども含め多様な教育機関を有する小平市は、学園都市でもあります。

大学、地域、行政などの協働*を通じて地域を盛り上げていくことを目指して設立された小平市大学連携協議会(こだいらブルーベリーリーグ*)は、地域との連携やつながりを深めており、地域の活性化の一端を担っています。

また、市内の中学・高校の吹奏楽部がルネこだいらに集結して吹奏楽の魅力を伝える「ルネこだいら吹奏楽フェスティバル」や、地域の幼児から社会人まで幅広い年齢層が、よさこいやダンスの発表を行う「小平よさこいスクールダンスフェスティバル」などは、まちの活気を生み出しています。

さらに、小平市には大学等の留学生も含め多様な国籍の外国人が居住しており、人口に対する外国人住民の割合は多摩26市の中でも上位となっています。

■ 多摩各市の学生数(上位10位)



ルネこだいら吹奏楽フェスティバル

- ・学生が多く活気がある
- ・多くの大学が存在する学園のまち
- ・文化的なまちであり続けてほしい

市民の声

どのようにいさせるか

- ・多様な教育機関があり、生涯学び続けられるまち
- ・学生や若者の知恵と行動力をいかす

地域資源

小平市は、ブルーベリー栽培発祥の地です。そうしたブルーベリーをはじめとする季節の農産物、国指定史跡である鈴木遺跡、小平ふるさと村や平櫛田中彫刻美術館などの文化施設、屋敷林や短冊型の農地などの歴史的景観、市民まつりや地域のお祭りなどのイベント、津田梅子など歴史上の人物、保有数都内1位の丸ポストなど、小平市には多様で豊かな地域資源が存在します。



農産物直売所



鈴木遺跡(国指定史跡)



小平市民まつり



丸ポスト

市民の声

- ・ブルーベリーなど果物がおいしい
- ・玉川上水や平櫛田中彫刻美術館を通して歴史が学べる
- ・お祭りが多く、地域の方と触れ合う機会が多い



どのようにいさせるか

- ・小平の愛着を感じる要素として、PRも含め多様な主体が関わる
- ・多世代の交流を生み出す



協働の気運

小平市では、古くから地域での協働の取組が行われています。例えば「沼さらい」と呼ばれる清掃活動では、用水路沿いの住民や自治会などが地域の力を結集して行っています。小平を開拓した先人たちから受け継いだ伝統ある行事が、現在も形を変えながら続けられています。

また、昭和39(1964)年に中学校通学区域を単位として、その後、昭和57(1982)年度から現在の小学校通学区域を単位として再編された19の青少年対策地区委員会が青少年の健やかな成長を願って活動しています。委員として、地区内の有志、自治会、商店会、子ども会、教職員、PTA関係者、民生委員・児童委員、保護司、青少年委員など多くの方々が携わっており、地域全体で子どもたちを見守り育む取組を進めています。青少年対策地区委員会が行う様々なイベントは、児童・生徒、保護者、地域住民など、多世代が集い、地域のつながりをつくることのできる場ともなっています。

このような、歴史的な経緯における住民相互の助けあいや、地域に根ざしたコミュニティが醸成されている一方で、少子高齢化や核家族化、高度情報化の進展、市民のライフスタイルや価値観の変化などに伴い、地域のことは地域で解決するという地域社会の意識が希薄になり、地域活動に参加する機会や関心の減少が懸念されています。こうした中、小平市第三次長期総合計画に基づいて、参加と協働を通じた市民自治のまちづくりを進めてきました。平成21(2009)年12月に施行された「小平市自治基本条例」は、自治を進めていくための基本的な原理原則を明確にしたものです。小平市第三次長期総合計画の期間中には、市民活動を支援する拠点として市民活動支援センター「あすぴあ*」を開設し、協働の基盤が確立しました。

市内を中心に活動する様々な人が集まって創り上げる、多様なイベント等も開催されています。例えば「みんなでつくる音楽祭in小平」は、音楽のジャンル、世代、障がいの有無などにとらわれず、みんなで楽しむ手作りの音楽祭です。

身近な地域においては、東日本大震災や多様化・複雑化する社会課題を踏まえ、自らの地域を担うしくみである地域自治の推進に取り組んでいます。学園西町地区や学園東町地区では、自治会や町会を中心に、地域に関わる様々な団体との一層の連携を図る地域連絡会を開催しているほか、府中街道から西側の地域においては市内の大学が中心となり、「小平西地区地域ネットワーク」を結成し地域の連携活動を進めています。



沼さらい



みんなでつくる音楽祭in小平

市民の声

- ・地域住民がまとまっていて、古くからある伝統を重んじ、継承し、地域の行事やお祭り等、積極的に集える場がある
- ・小平市は若い人が関われる土壌がある

どのようにいさせるか

- ・住民が主体的に地域課題を把握して、その課題を解決する体制づくり
- ・市民の力をもっと発展させていく